

# 懲戒と体罰の区別に関する学生の認識 —テキストマイニングによる分析から—

越中康治<sup>1</sup>，目久田純一<sup>2</sup>

<sup>1</sup>宮城教育大学，<sup>2</sup>松本短期大学

本研究では、教師を目指す学生が、懲戒と体罰をどのように区別しているのかについて、テキストマイニングによる自由記述文の分析から検討を行った。教育を専門としない学生との比較を通してその特徴の把握を試みた結果、教育を専門としない学生が懲戒と体罰との違いを「程度」「理由の有無」あるいは「相手はどう取るか」の問題ととらえる傾向にあるのに対して、教師を目指す学生は「身体に対する侵害」や「肉体的苦痛」を与える行為であるか否かに言及して両者を区別する傾向にあることが示された。他方、両者の区別に関して、教師を目指す学生においても、その認識は一樣ではないことも確認された。体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底を図る上でも、養成課程の教育において、さらに理解を深める機会を設けることの必要性が示唆された。

キーワード：懲戒、体罰、教育学部生、看護学生、テキストマイニング

## 1. 問題と目的

学生は懲戒と体罰をいかに区別しているのであろうか。学校教育法には「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない」(第 11 条)とあり、懲戒を認める一方で、体罰を禁じている。しかし、両者の区別については、従来、体罰の定義が定められていないため、解釈の余地が大きくなることが避けられない[1]との指摘もなされてきた。

懲戒と体罰の区別をめぐるのは、その理解促進を図るべく、平成 19 年、平成 25 年と相次いで文部科学省による通知において考え方が示されている[2、3]が、こうした考え方は学生にも広まっているのだろうか。本研究では、教師を目指す学生の認識について、その自由記述文に基づき検討を行うこととする。自由記述(テキスト型データ)の計量的分析にあたっては、樋口[4、5、6]を参考に KH Coder を用いる。なお、分析においては、教育を専門としない学生(看護学生)による自由記述文との比較を通して、教師を目指す学生たちの認識の特徴を明らかにする。

## 2. 方法

大学生(教育学部 3 年次生) 162 名と看護学生(看護学科 3 年次生) 73 名を対象として質問紙調査を実施した。その中で、懲戒と体罰について「2 つの語の違いをみなさんなりに説明してください」と教示し、それぞれについて自由に記述するよう求めた。その結果得られた懲戒に関する自由記述 224 件(教育学部生 158 件、看護学生 66 件)と体罰に関する自由記述 226 件(教育学部生 159 件、看護学生 67 件)の計 450 件をテキストマイニングによる分析の対象とした。

## 3. 結果

以下の分析では、KH Coder (Ver. 2.Beta.30e) [7]と同梱された茶筌(ChaSen) [8]を使用した。

### 3.1 前処理、複合語の検出及び語の取捨選択

まず、450 件の自由記述データについて前処理を実行した。文章の単純集計の結果、499 の文が確認された。また、総抽出語数は 5,438、異なり語数は 585 であった。さらに、助詞や助動詞などのどのような文章にもあらわれる一般的な語が除外され、分析に使用される語として 2,407 語(異なり語数 459)が抽出された。

次に、茶釜を利用して複合語の検出を行った。その結果、今回の分析対象となったデータにおいては、「身体的苦痛」「肉体的苦痛」「精神的苦痛」という複合語と「身体的」「肉体的」「精神的」という複合語とが混在していた。そこで、分析に使用する語の取捨選択において、「身体」「精神」「肉体」「苦痛」の4語を強制抽出する語に指定することとした。また、比較的多く出現した語のうち「直接」(デフォルトでは「直接」と「直接的」にわかれる)と「罰」(名詞とサ変名詞にわかれる)についても「強制抽出する語」に指定することとした。さらに、今回記述を求めた「懲戒」と「体罰」の語については、分析から除外するために使用しない語として指定した。

なお、これ以降の分析のために、KH Coder の外部変数と見出しのコマンドを用いて、「記述の種別」(懲戒、体罰)と「記述者の校種」(教育学部生、看護学生)を外部変数として設定した。

### 3.2 特徴語の分析

KH Coder の特徴語の一覧を作成する機能を用いて、懲戒と体罰を特徴づける語として、教育学部生と看護学生を込みにして、Jaccard の類似性測度が大きい順に、上位10ずつをリストアップした(表1)。また、各学生(教育学部生、看護学生)を特徴づける語として、懲戒と体罰の記述を込みにして、Jaccard の類似性測度が大きい順に、上位10ずつをリストアップした(表2)。

表1 懲戒と体罰を特徴づける語

懲戒		体罰	
罰	.204	与える	.345
停学	.156	身体	.298
反省	.129	苦痛	.240
生徒	.118	的	.231
悪い	.116	暴力	.155
退学	.112	肉体	.148
言葉	.098	痛み	.116
叱る	.097	伴う	.113
処分	.089	直接	.091
行う	.078	手	.090

注) 数値はJaccardの類似性測度

### 3.3 共起ネットワーク

KH Coder の共起ネットワークのコマンド(語と外部変数との関係を描くことを可能とする)を用いて、懲戒・体罰のそれぞれと頻出語(最小出現数は10に設定した)とが互いにどのように結びついているのかを描いた(図1)。なお、図1は強い共起関係ほど太い線で描画されており、出現数の多い語ほど大きい円で描画されている。

図1及び表1から、学生は全体として、懲戒と体罰をいずれも「子ども」「児童」「生徒」に対する「行為」または「罰」であるとしながらも、「直接的」「身体的」「肉体的」「精神的」な「苦痛」「痛み」「ダメージ」を「与える」行為であるか否か、あるいはそれらを「伴う」か否かという観点から区別していることが見て取れる。

また、懲戒の説明においては、学校教育法施行規則で定められている「退学」「停学」などの「処分」に関する記述の他に、「悪い」行為を「言葉」で「叱る」「注意」する、あるいは「指導」するなどの語を用いた記述が見て取れる(図1及び表1)。さらに、「掃除」「課題」など、「認められる懲戒」(通常、懲戒権の範囲内と判断されると考えられる行為)[9]の参考事例として示されている内容(例えば、“学習課題や清掃活動を課す”など)と関連する語も散見された。他方、体罰の説明においては、「教師」による「殴る」「蹴る」「叩く」などの「感情的」な行為とする記述などが特徴的であることが見て取れる(図1)。

表2 各学生を特徴づける語

教育学部生		看護学生	
与える	.259	身体	.166
罰	.229	悪い	.084
苦痛	.189	行う	.068
的	.175	手	.059
生徒	.129	危害	.052
肉体	.117	理由	.036
伴う	.116	社会	.030
暴力	.101	相手	.029
停学	.097	理解	.029
反省	.092	感じる	.029

注) 数値はJaccardの類似性測度

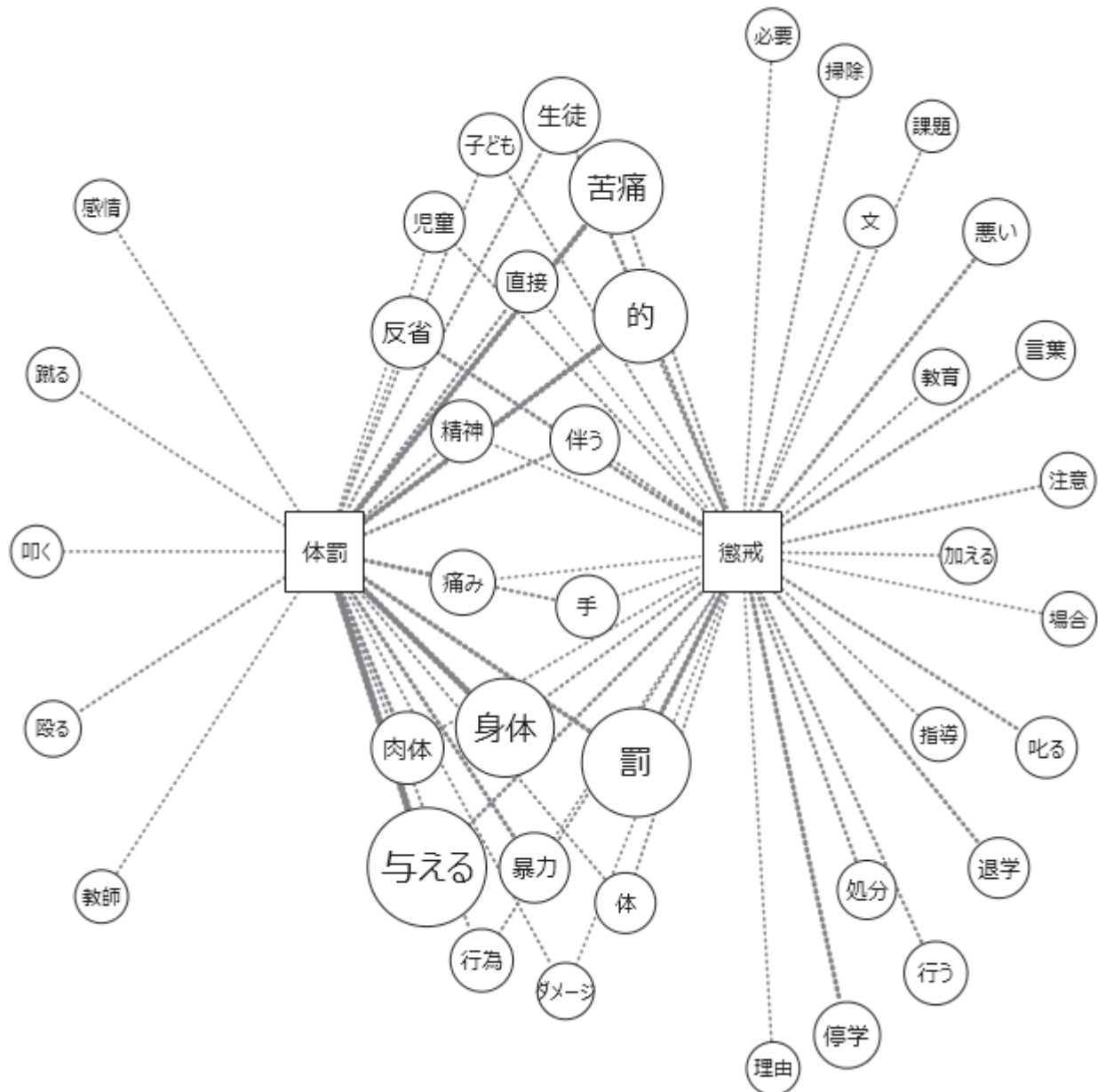


図 1 共起ネットワーク

### 3.4 多重対応分析

KH Coder の対応分析のコマンド(抽出語を用いた対応分析を行い、その結果を 2 次元の散布図に示す)を用いて、抽出語×外部変数(記述の種別、記述者の校種)の多重対応分析(複数の変数を同じ分析の中に含めることで、抽出語とそれぞれの変数との関連を同時的に探索したり、それを通じて、各変数間の関連を探ることができる)を行った(最小出現数は 5 に設定した)。

対応分析の結果(図 2)から、第 1 軸は記述の種別(正が懲戒、負が体罰)を、第 2 軸は記述者の校種(正が教育学部生、負が看護学生)を弁別する次元と解釈できそうである。表 2 を参照しつつ図 2 を概観すると、看護学生においては、懲戒や体罰の説明において、教育学部生では使用されることの少ない語が用いられていることが見て取れる。特に、「理由」「社会」「相手」「理解」などの語(表 2)や「程度」「過度」などの語(図 2)が特徴的と言えそうである。

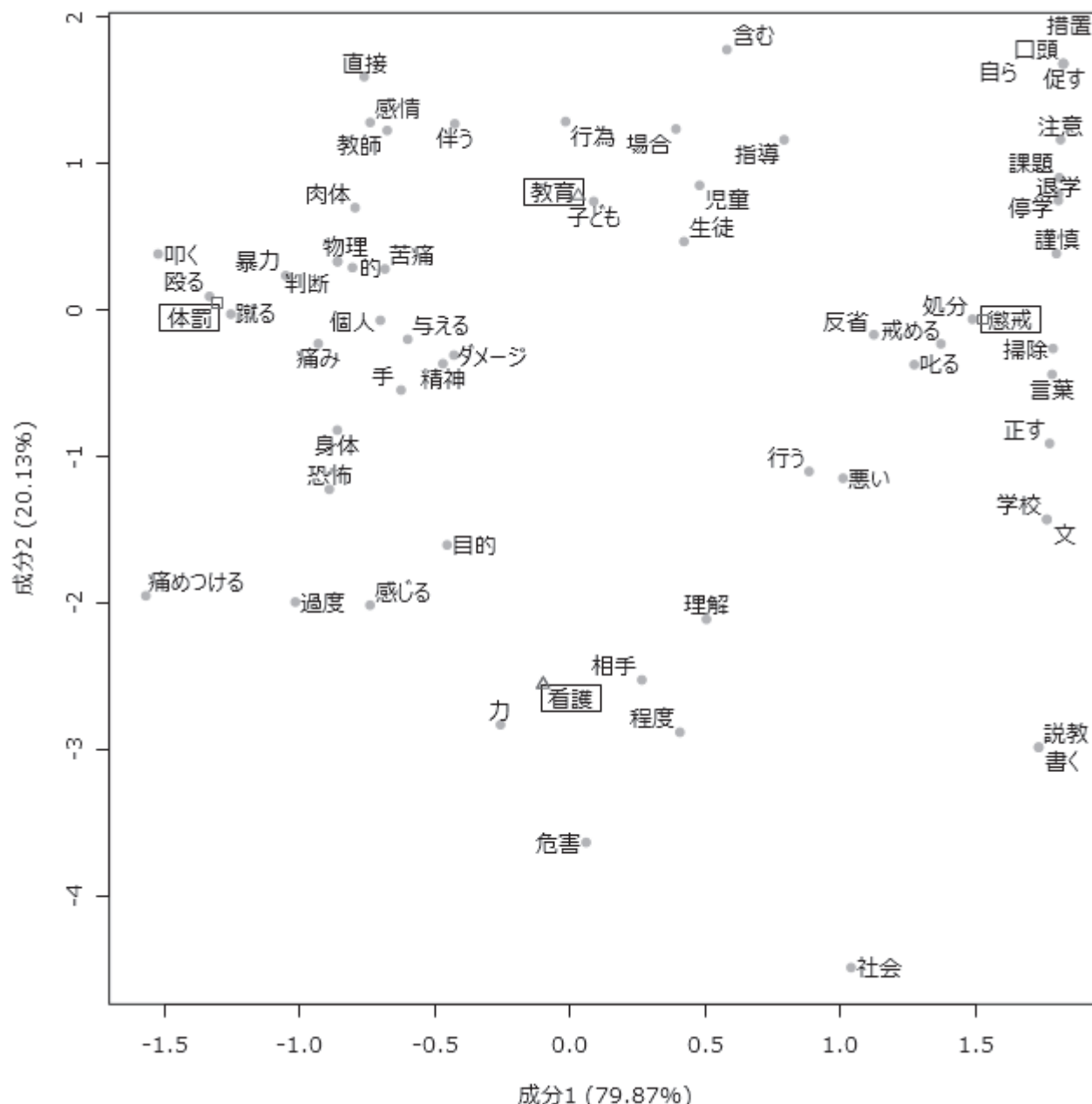


図 2 対応分析の結果の散布図

もとのテキストを抜粋すると、看護学生では、懲戒を「理由があり、生徒のためを思っている」「理由がきちんと成立している戒め」「理由がきちんとあり、社会的に考えて適当な対処」などと説明する一方で、体罰を「生徒の考えも、理由も聞かずに教師が一方的に暴力をふるうこと」とするなど、理由の有無により両者を区別する記述が見られた。また、懲戒は「体罰より程度が軽い」「理由に適した程度のしつけ的内容」であるのに対して、体罰は「過度の懲戒」であり、「懲

戒に比べ過度のもの」「体に罰を与えるものであり、程度が重い」とする記述もみられた。また、懲戒は「生徒も悪いことをしたことを理解し、認めた上でするもの」であるのに対して、体罰は「懲戒にはある『相手をおもいやる』ということなしに、過度に叱ったり、手をあげたりする」行為である、または「相手の年齢や発達状況や理解力を越えて、相手に苦痛を与えすぎてしまう罰」であるとして、相手がどう取るか・理解するか依存する問題ととらえる記述もみられた。

#### 4. 考察

本研究の目的は、教師を目指す学生が、懲戒と体罰をどのように区別しているのかについて、教育を専門としない学生との比較を通して、その特徴を把握することであった。この目的のために、KH Coder を用いたテキストマイニングによる自由記述文の分析を行った。

結果として、教師を目指す学生に関しては、懲戒と体罰の違いについて、文部科学省による通知に記されている「身体に対する侵害」や「肉体的苦痛」などのキーワードに言及しつつ説明する傾向にあることが確認された。他方、教育を専門としない学生においては、両者の区別を、理由の有無や程度の問題、あるいは相手がどう取るかの問題ととらえる傾向にあることが示された。平成 19 年、平成 25 年と相次いで文部科学省による通知が示される中、両者の区別について、教育学部生においては一定の理解が示されている可能性が示唆された。

ただし、学生による自由記述の一つひとつを詳しく見ていくと、教師を目指す学生においても、その認識は一樣ではないと思われる点もあったことを付言しておきたい。両者の違いを説明できていないケースに加えて、看護学生と同様に、両者の違いを理由の有無や程度の問題ととらえていると思われるケースは、教育学部生においても少なからず認められた。具体的には、懲戒は「悪いことをしても今後の更正を見込めるように注意する程度に手をあげること」であるとする記述や、体罰は「過度な暴力行為のこと(身体に跡が残る、トラウマになる)」あるいは「悪いことをした子どもに対して忠告の意もなく、ただ手をあげること」であるとする記述などが見られた。こうした記述からも、体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底を図る上で、養成課程の教育の中で、さらに理解を深める機会を設けることの必要性が示唆される。

以上、本研究は、テキストマイニングの手法を用い

て、学生の記述の特徴をあくまで大まかにとらえたものである。学生の個々の認識については、改めてより詳細な検討を行うことが今後の課題として残された。

#### 5. 付記

本稿は日本教育心理学会第 55 回総会において発表した内容を加筆・修正したものである。

#### 6. 引用文献

- [1] 星野 豊:「体罰の禁止」とその法的解釈, 教職研修, vol. 38 (2), pp.100-103 (2009).
- [2] 文部科学省初等中等教育局長:「問題行動を起こす児童生徒に対する指導について(通知)」平成 19 年 2 月 5 日(2014 年 1 月 30 日取得)  
<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seito\\_shidou/07020609.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seito_shidou/07020609.htm)>
- [3] 文部科学省初等中等教育局長・文部科学省スポーツ・青少年局長:「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について(通知)」平成 25 年 3 月 13 日(2014 年 1 月 30 日取得)  
<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seito\\_shidou/1331907.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seito_shidou/1331907.htm)>
- [4] 樋口耕一: テキスト型データの計量的分析—2 つのアプローチの峻別と統合—, 理論と方法, vol. 19 (1), pp.101-115 (2004).
- [5] 樋口耕一: KH Coder 2.x リファレンス・マニュアル(2013 年 12 月 20 日取得)  
<<http://khc.sourceforge.net/dl.html>>
- [6] 樋口耕一: KH Coder 2.x チュートリアル(2013 年 12 月 20 日取得)  
<<http://khc.sourceforge.net/dl.html>>
- [7] 樋口耕一: KH Coder Index Page(2013 年 12 月 20 日取得)  
<<http://khc.sourceforge.net>>
- [8] 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 自然言語処理学講座(松本研究室): ChaSen

(2013 年 12 月 20 日取得)

<<http://chasen-legacy.sourceforge.jp>>

- [9] 文部科学省初等中等教育局長・文部科学省スポーツ・青少年局長：別紙「学校教育法第 11 条に規定する児童生徒の懲戒・体罰等に関する参考事例」平成 25 年 3 月 13 日 (2014 年 1 月 30 日取得)

<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seito\\_shidou/1331908.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seito_shidou/1331908.htm)>